{スタイル「表題」}和文原稿テンプレート

{スタイル「副題」}－副題がない場合は，この行を削除する－

{スタイル「本文」}1行空ける

{スタイル「著者」}大分太郎（大分大学教育学部）

豊後梅子（大分大学教育学部）

山岳登（NPO法人山岳間連携推進協議会）

堀田山嵐（大分大学教育マネジメント機構）

{スタイル「本文」}２行空ける

{スタイル「要旨」}和文要旨（400字程度）もしくは英文要旨（250語程度）を記載する。

{スタイル「キーワードタイトル」}キーワード：{全角スペース}高等教育，生涯学習，地域連携，授業改善，カンマ区切りで５個程度のキーワードを書く

**※「読点」は「，」で統一してください**

**※「句点」は「。」で統一してください**

**基本２段組だが，図などについては１段組でも可**

# はじめに{スタイル「見出し1」}

{スタイル「本文」}本研究は・・・。そのため，・・・。そこで本研究では，・・・について調査を行い，すでに報告されている・・・との因果関係について考察を行った。

# 方法{スタイル「見出し1」}

{スタイル「本文」}高山・山峰（1949）の方法を一部改変し，登山における呼吸の・・・して用いた。酸素の計測には・・・を用いた。

## 協力者{スタイル「見出し2」}

{スタイル「本文」}協力者は，・・・の10名であった。

### 検定{スタイル「見出し3」}

{スタイル「本文」}協力者の時間経過に伴う酸素計測値に・・・検定を行い両者の相関を調べた。

# 結果{スタイル「見出し1」}

{スタイル「本文」}図１は，本調査において登山者の・・・を１時間ごとに計測した結果である。

一部の外れ値が確認できるが（図１の左上部３点），これらを除くと時間経過と学習効果との間に有意な正の相関が見られた（*r*=0.86, *p*<0.01）。

{中央揃え}

図{半角スペース}１{全角スペース}時間経過と学習効果の相関{スタイル「図表番号」}

表{半角スペース}１{全角スペース}登山者ごとの学習効果の比較{スタイル「図表番号」}

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | {中央揃え} |  |
|  |  |  |

**※図表「番号」は「全角」で統一してください**

**※「番号」の前は「半角」，後は全角スペース」で**{スタイル「図表番号」}**を適用してください**

図 １　時間経過と学習効果の相関

表 １　登山者ごとの学習効果の比較

# 考察・まとめ{スタイル「見出し1」}

{スタイル「本文」}Mountain et al.（1984）が主張している２時間にわたる山登りの・・・に対し，30分間でも十分な・・・があることが本調査にて示された。

謝辞{スタイル「謝辞・注・参考文献見出し」}

{スタイル「本文」}本研究は文部科学省○○研究費第1234○号の助成を受けて行われた。

注{スタイル「謝辞・注・参考文献見出し」}

1. {スタイル「箇条書きリスト」}参考文献の日本語著者名は，原則として「姓名」の順番で姓名の間に空白などの区切りを入れずに表記する。英語著者名は，「姓, 名」とカンマで区切って表記する。
2. 参考文献リストは，姓の50音順もしくはアルファベット順，同著者は出版年順に並べる。

参考文献{スタイル「謝辞・注・参考文献見出し」}

{スタイル「参考文献」}著者名(発行年). 論文の表題. 掲載雑誌名, 巻(号), 最初のページ-最後のページ.

{スタイル「参考文献」}著者名(発行年). 書名(版数). 出版社名, 発行地.

{スタイル「参考文献」}著者名(公開年). 文書タイトル, URL (アクセス年月日)